

市場出荷に向けたイチゴ新品种 「みおしずく」の栽培技術支援

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

JA 滋賀蒲生町管内の 3 戸のイチゴ生産者は、令和 5 年度から本県育成のイチゴ新品种「みおしずく」を用いて品種統一を図り、市場出荷を開始しました。市場出荷を行う場合は、単価の高い 12 月からの出荷が求められますが、令和 5 年度は定植が遅れる等により 12 月上旬からの出荷開始ができない、直売に慣れているため、市場出荷に向かない完熟果を出荷してしまう等の問題が起きました。そこで、令和 6 年度は、(1)12 月上旬から出荷できる栽培管理技術習得支援と(2)市場出荷に適した適期収穫支援を行いました。

【普及活動の内容】

JA 担当者とともに定期現地巡回と集合研修を実施し、「みおしずく」の生育に合わせた栽培技術指導を行いました。

(1)令和 5 年度の栽培終了時に反省会を行うとともに、12 月上旬出荷に向けた育苗のスケジュールを提案し、8 月の中旬までに採苗が終了するよう指導を行いました。その後は、花芽分化に応じた 9 月中旬定植の提案、本ぽでは養水分や温度管理方法を中心に指導を行いました。

(2)11 月 18 日に出荷前研修会を実施し、規格や着色率について説明しました。12 月上旬からは目合わせ会を行い、市場出荷に適した収穫時期への理解を深める支援を行いました。



写真1 現地指導の様子

【普及活動の成果】

昨年度に引き続き、猛暑等の影響を受け苗づくりに苦労されましたが、育苗スケジュールを前倒した結果、9 月中旬から植え付けが開始でき、当初の計画どおり生産者全員が 12 月上旬から出荷が開始できました。また、玉だしや葉かき等の技術と定期的な目合わせ会の実施により適期収穫が実践され、消費者に喜ばれる「みおしずく」の市場出荷ができるようになりました。

◎対象者の意見

本育苗途中に炭疽病が発生し大変な年でしたが、育苗方法を変更し苗を確保できました。12 月から市場出荷ができ、作りやすい品種であると感じました。(生産者 T 氏)